

用語集

1. 第2章 事業の目的及び内容

重力式コンクリートダム	主要な材料であるコンクリートの質量を利用し、自重で水圧に耐える構造のダムをいいます。
河床部放流設備	現河床と同標高付近に設置する放流設備であり、平常時の流水はこの設備を流下します。
常用洪水吐き	主として洪水時に使用する放流設備であり、放流量を調節する機能を有します。
非常用洪水吐き	常用洪水吐きの放流量を上回る部分を放流する洪水吐きをいいます。一般に越流式の放流設備により構成されます。
減勢工	ダムから流下する水のエネルギーを弱め、洗掘等を防ぐため、ダムの直下流に設ける構造物をいいます。
総貯留量	洪水調節容量と計画堆砂量・洪水調節地内盛土等を合計した容量であり、総貯水容量ともいいます。
貯水面積	ダム洪水調節地にサーチャージ水位（洪水時最高水位）まで水を溜めた場合の水面の面積をいいます。
集水面積	ダムに貯まる雨の降る地域の面積をいいます。
常時満水位	ダムの目的の一つである利水目的（水道、かんがい、工業用水など）に使用するために、貯水池に貯めることが出来る最高水位をいいます。貯水池の水位は、渇水と洪水の時期以外は常時この水位に保たれます。なお、流水型ダムは利水目的が含まれないため、常時満水位は設定されていません。
サーチャージ水位	洪水時、一時的に貯水池に貯めることが出来る最高の水位をいいます。洪水時最高水位ともいいます。
計画堆砂量	一定期間（一般には100年間）にダム洪水調節地に堆積すると予想される流入土砂を貯える容量をいいます。
転流工	ダムの施工が乾いた状態で行えるよう、河川の流路を変更して流水を導くための仮設構造物をいいます。ダム本体の施工中に必要で、本体施工に先立って建設されます。また、転流工によって河川の流れを変えることを転流といいます。

試験湛水 ダムが完成した後に、貯水や放流に対するダム本体、放流設備、洪水調節地周辺等の安全性の検証を行います。

2. 第3章 事業実施区域及びその周囲の概況

植生 ある土地に生育している植物の集団を全体的に漠然と指す場合に用いられます。

生態系 ある地域に生息・生育する生物間の相互関係と、それらを取りまく環境との相互関係を総合的にとらえたまとまりのことです。

二酸化窒素 窒素(N₂)の酸化物で赤褐色の気体であり、大気汚染物質のひとつとして、環境基本法に基づく環境基準が設定されています。発生源としては、ボイラーや自動車のような燃焼過程や硝酸等の製造工程等があります。燃焼過程からはほとんどが一酸化窒素として排出され、大気中で二酸化窒素に酸化されます。

二酸化硫黄 硫黄を含む燃料の燃焼や原料の処理により発生する気体であり、大気汚染物質のひとつとして、環境基本法に基づく環境基準が設定されています。

浮遊粒子状物質 大気中に浮遊している粒径 10 μ m 以下の粒子状物質であり、大気汚染物質のひとつとして、環境基本法に基づく環境基準が設定されています。発生源としては、工場のばい煙、自動車排出ガス等の人の活動に伴うもののほか、火山や森林火災等の自然由来のものがあります。

微小粒子状物質 大気中に浮遊している 2.5 μ m (1 μ m は 1mm の千分の 1) 以下の小さな粒子のことで、従来から環境基準を定めて対策を進めてきた浮遊粒子状物質 (SPM: 10 μ m 以下の粒子) よりも小さな粒子です。

環境基準 環境基本法に基づくもので、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準です。国や地方公共団体が公害対策を進めていく上での行政上の目標として定められるものであり、直接、工場等のばい煙や排水、騒音の発生を規制する規制基準とは異なります。現在わが国では、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音について定められています。

光化学オキシダント

工場の煙や自動車の排気ガスなどに含まれている窒素酸化物（NOx）や炭化水素（HC）が、太陽からの紫外線を受けて光化学反応を起こし、オゾン、パーオキシアセチルナイトレートが生成され、これらの酸化力の強い物質を総称して、オキシダントあるいは光化学オキシダントといいます。また、これらの物質からできたスモッグを光化学スモッグといいます。

ダイオキシン類

一般に、ポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン（PCDD）とポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）をまとめてダイオキシン類と呼び、コプラナーポリ塩化ビフェニル（コプラナー PCB、またはダイオキシン様 PCB とも呼ばれています。）のようなダイオキシン類と同様の毒性を示す物質をダイオキシン類似化合物と呼んでいます。平成 11 年 7 月 16 日に公布されたダイオキシン類対策特別措置法においては、PCDD 及び PCDF にコプラナー PCB を含めて“ダイオキシン類”と定義されました。また、同法第七条で大気・水質（水底の底質を含む）・土壌について、人の健康を保護する上で維持することが望ましい基準が定められ、汚染状況を把握するために、常時監視・調査測定を都道府県に義務づけています。

要請限度

騒音（振動）規制法においては、市町村長は指定地域内における自動車騒音（振動）を低減するために、測定に基づき、道路管理者などに意見を述べ、都道府県公安委員会に対して対策を講じるよう要請することができます。この判断の基準となる値が要請限度です。

超低周波音

低周波音は、私たちが話す声や鳥のさえずりなどと同じ音の仲間で、その中でもトラックのエンジン音などの特に低い音のことをいいます。概ね 1Hz～100Hz の音を低周波音と呼び、その中でも人間の耳では特に聞こえにくい音（20Hz 以下の音）を超低周波音と呼びます。

水象

海洋や河川、湖沼、あるいは降水や流出、蒸発などの現象を指します。

流域

降水に由来する表流水の集まる範囲を集水域、また、流域ともいいます。流域相互の境界を流域界または分水界といいます。

幹川流路延長

河口から水源（分水界上の点）までの流路の延長を、幹川流路延長（かんせんりゅうろえんちょう）といいます。

類型指定 環境基本法第 16 条第 2 項に定めるものを指します。水質汚濁に係る環境基準のうち、生活環境の基準については河川、湖沼、海域別に利用目的に応じた水域を区切って河川は 6 類型、湖沼は 4 類型、海域は 3 類型が設けられています。pH、BOD 等の項目について、それぞれの水域類型ごとに環境基準値を定め、公共用水域ごとに水域類型のあてはめを行うことより、当該水域の環境基準値が具体的に示されます。

人の健康の保護に関する環境基準

人の健康に係る被害を生じるおそれのある物質で、環境基本法第 16 条第 1 項に定めるものを指します。カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素などの 26 物質が示されています。

生活環境の保全に関する環境基準

環境基本法第 16 条第 1 項に定めるものを指します。人の生活に密接な関係のある水利用などの水質及び動植物及びその生息・生育環境に関連のある項目のことです。項目には、pH、DO、BOD、SS 及び大腸菌群数が定められています。湖沼では、COD、窒素、リンが定められることがあります。

水素イオン濃度 (pH)

水の酸性、アルカリ性を示す指標で、0～14 の間の数値で表現されます。pH7 が中性、7 から小さくなるほど酸性が強くなり、7 を超えるほどアルカリ性が強くなります。河川水では通常 7 付近ですが、温泉水の混入、流域の地質（石灰岩地帯など）などにより酸性あるいはアルカリ性になることがあります。河川での pH の環境基準値は類型別に定められており pH6.5(あるいは 6.0)～8.5 となっています。

生物化学的酸素要求量 (BOD)

生物化学的酸素要求量(Biochemical Oxygen Demand)の略称を BOD といいます。河川水や工場排水中の汚染物質(有機物)が微生物によって無機化あるいはガス化されるときに必要とされる酸素量のことです。単位は mg/L で表します。この数値が大きくなれば、水質が汚濁していることを意味します。

浮遊物質 (SS)

懸濁物質のことです。水中に分散している不溶性の微細粒子で、有機性のものと無機性のものがあり、有機性のものは植物プランクトンなどが含まれ、無機性のものは土壌由来のものが多いようです。

溶存酸素量(DO)	水中に溶けている酸素量を示します。溶存酸素量は、汚染度の高い水中では、消費される酸素の量が多いため少なくなります。また、水温が高いほど、気圧が低いほど、また、塩分濃度が高いほど濃度は低くなります。1気圧、20度での純水の溶存酸素量は約9mg/Lです。きれいな水ほど酸素は多く含まれます。藻類が著しく繁殖するときには炭酸同化作用が活発になって過飽和となることがあります。溶存酸素が不足すると魚介類の生存を脅かすほか、水が嫌気性となって硫化水素やメタン等が発生し、悪臭の原因ともなります。
大腸菌群数	大腸菌は人間をはじめとする哺乳動物の腸管内に生息する大腸菌および大腸菌ときわめてよく似た性質を持つ細菌の総称です。大腸菌群数は、検水1mL中の大腸菌群の集落(コロニー)数、または100mL中の最確数(Most probable number、略してMPN)で表されます。大腸菌には0-157等のような病原性のものもありますが、概ね非病原性であり、衛生管理の一手段として行う大腸菌群数試験での大腸菌群数の検出が、直ちに衛生上、有害というものではありません。
水底の底質	河川の運搬作用によって運ばれる侵食土壌および人間活動によって排出される物質のうち、微粒子が沈降して湖沼等の底部を構成している堆積物を底質または底泥といいます。
地下水の水位	ある基準面から測った地下水面の高さをいいます。一般には、地表面から地下水面までの深さで表示しますが、海拔高度などで表す場合もあります。
褐色森林土	火山灰の影響の少ない山地・丘陵地に分布する褐色あるいは黄褐色の「風化変質層」をもつ土壌のことです。
黒ボク土	主として母材が火山灰に由来し、リン酸吸収係数が高く、容積重が小さく、軽しょうな土壌です。有機物が集積して黒い色をしていることが多く、黒くてホクホクしていることから黒ボク土と呼ばれます。
台地段丘	台地は、川より高く平らな形で残った平坦面のことをいいます。段丘は台地の一つで、川に向かって階段状になっている地形のことをいいます。
ローム台地	ローム層は、火山灰や大陸起源の風成塵(例えば黄砂など)、腐植(植物の遺骸)などから構成されています。ローム台地とは、そのローム層に被覆された台地上の地形を指します。

扇状地性低地	扇状地は、山麓部にあつて主として砂礫からなる扇状の堆積地形のことをいいます。扇状地性低地とは、扇状地の末端部に位置し、急流河川が運搬してきた砂・石・軽石等で形成された地形をいいます。
チャート	堆積岩の一種で、方解石、あられ石など、炭酸カルシウム(CaCO ₃)を50重量%以上含むものです。サンゴや貝殻など生物遺骸が集積したり、蒸発などによって炭酸カルシウムが無機的に沈殿することによって形成されます。
石灰岩	深海底でプランクトンの珪質の殻が積もってできた岩石です。堆積岩の一種で、二酸化珪素(SiO ₂)を90%以上含むものです。
安山岩	マグマが急速に冷えてできた岩石のうち、やや黒っぽく重い石。鉄やマグネシウムをやや多く含み、シリカはやや少ないという特徴があります。日本の火山の多くは、安山岩からできています。
重要な種	ここでは、国の法律や熊本県の条例（文化財保護法、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律、熊本県野生動植物の多様性の保全に関する条例）で指定されている種および環境省レッドリスト、熊本県レッドデータブックに掲載されている種、学識者より指摘のあった希少性の観点等から重要な種のことをいいます。
種	生物分類学上の基本単位で、属の下位に置かれています。共通する形態的特徴をもち、他の個体群との形態の不連続性、交配および生殖質の合体の不能、地理的分布の相違などによって区別できる個体群のことをいいます。
底生動物	水域で岩に固着したり、砂泥中に潜入したり、あるいは水底上を這い回ったりして、生活している動物のことで、ベントスともいいます。河川では、水生昆虫、貝類、カニ類などがこれに該当します。
陸産貝類	カタツムリなど、陸上に生息する巻き貝のことです。陸生貝、陸貝ともいいます。
付着藻類	水中の岩や石礫などの表面に付着して生育する藻類(主に珪藻、藍藻、緑藻)のことです。
蘚苔類	コケ植物のことです。花をつけない陸上植物の仲間で、孢子で繁殖します。
大型菌類	菌類のうち、いわゆるキノコ類など、肉眼で見られるものをいいます。

広葉樹林	大部分を広葉樹が占める森林のことです。温帯から熱帯にかけて分布しています。日本では、ブナ・ミズナラ・カエデなどが主体の落葉広葉樹林と、シイ・カシ・タブノキ・クスノキなどが主体の常緑広葉樹林がみられます。
二次林	原生林(一次林)が伐採や山火事などによって破壊されたあと、自然または人為的に再生した林のことです。
止水域	水の流れがほとんどないところです。湖や池、沼などがこれに当たります。
眺望点	環境影響評価における眺望点とは、不特定多数の人の集まる可能性のある公共的な場所で、対象事業計画地を望むことができる地点を示し、展望台、車道、歩道沿線等がこれにあたります。
景観資源	景観資源（見られる対象である環境）は、景観と認識される自然的構成要素のことです。

人と自然との触れ合いの活動の場

「自然との触れ合い」とは、自然環境の恵沢を享受するための基本的かつ具体的な行動であり、自然の豊かな地域に出かけていったり、街の中の街路樹の緑や水辺地の自然が目に入ってやすらぎを覚えたりすることなどにより、人間性の回復や保健休養としての効用等を享受しようとするものです。また、自然と触れ合うことにより、自然へのモラルと愛情を育むことができ、環境教育としての効果も期待されているところです。環境影響評価では、これらの活動に関し、野外レクリエーションを通じた人と自然との触れ合い活動及び日常的な人と自然との触れ合いの活動が一般的に行われる施設又は場の状況及び利用状況を踏まえ、その中から「主要な人と自然との触れ合いの活動の場」を抽出し、予測・評価することとしています。

空間放射線量率	ある時間内に空気中を通過する放射線の量をいいます。平常時や緊急時の環境モニタリングにおける重要な測定項目のひとつです。ガンマ線による空気吸収線量率または照射線量率はサーベイメータ、連続モニタ、可搬式モニタリングポスト等により測定されます。
---------	---

社会福祉施設	社会福祉施設は、老人、児童、心身障害者、生活困窮者等社会生活を営む上で、様々なサービスを必要としている者を援護、育成し、または更生のための各種治療訓練等を行い、これら要援護者の福祉増進を図ることを目的としています。社会福祉施設には大別して老人福祉施設、障害者支援施設、保護施設、婦人保護施設、児童福祉施設、その他の施設があります。
--------	---

最終処分場 一般廃棄物及び産業廃棄物を埋め立て処分するのに必要な場所及び施設・設備の総体を指します。産業廃棄物最終処分場には、安定型(廃プラスチック等)、管理型(汚泥等)、遮断型(有害物質を含む廃棄物)があります。

3. 第4章 環境配慮レポートに関する内容

環境配慮事項 「戦略的環境アセスメント導入ガイドライン(平成19年4月環境省)」で、事業の実施による重大な環境影響の回避又は低減を図るために、事業に先立つ早い段階で整理を行うことを求められている環境に対する配慮事項です。

環境保全措置 環境影響評価法に基づき、調査・予測・評価を行う過程において事業者が実行可能な範囲で対象事業の実施による影響を回避・低減することを目的として検討する対策のことをいいます。

富栄養化 湖沼・貯水池の栄養塩類(植物プランクトンが増えるのに不可欠なリンや窒素化合物)の増加の結果、植物プランクトンが著しく増殖することです。

群落 同じ場所で生育しているひとまとまりの植物群をいいます。

眺望景観 環境影響評価における眺望景観とは、不特定多数の人の集まる可能性のある眺望点から景観資源を眺望する場合の景観をいいます。

流況 水域の流れの状況を総括して流況と呼びます。河川においては、流量として平水流量、低水流量などが、また、水位については平水位、低水位などがあります。

濁度 水の濁りの程度を表すものです。比較用の標準液を使って肉眼により求める方法と光の透過率や散乱の度合いを計測して求める方法があります。JIS K 0101(工業用水試験法)ではカオリンを標準とするカオリン濁度と、ホルマジンを標準とするホルマジン濁度の2種類を定めています。それぞれの物質の1mg/Lを含む溶液の濁度を1度としています。定は、比色管による視覚測定法と各種の濁度計(いずれも光学式による)を用いる方法があります。

魚類の遡上 河川あるいは上流へ遡ることをいいます。

魚類の降下 海域あるいは下流へ降ることをいいます。

生態系上位性	生態系を検討する上での視点の一つで、生態系の上位に位置する性質をいいます。具体的には、生態系を形成する種において食物連鎖の栄養段階の上位に位置する種に注目します。
生態系典型性	生態系を検討する上での視点の一つで、地域の生態系の特徴を典型的にあらわす性質をいいます。具体的には、地域に代表的な生息・生育環境やそこに生息・生育する生物群集に注目します。
注目種	生態系の環境影響評価に関する検討方針の基本的事項（平成 9 年 12 月 12 日環境庁告示第 87 号）において示されている、調査・予測・評価を行う上で選定する注目すべき生物種または生物群集のことです。生態系の環境影響評価は、生態系のすべての構造・機能に着目した調査を行うべきですが、現時点ではすべての生態系に適用可能な調査手法を確立することが困難であるため、生態系の上位に位置する上位性、生態系の特徴をよく表す典型性、特殊な環境等を指標する特殊性、それぞれの視点から注目される生物種又は生物群集を複数選び、これらの調査を通して生態系に対する影響の程度を把握するという、生物種・群集に着目した手法が例示されています。
生物群集	ある地域に生息している複数の生物種の集合で、生物種間のさまざまな相互関係によって組織化された集団の単位のことをいいます。生物群集は、構成している種数、各種の相対的な個体数、多様性や安定性などで特徴づけられます。
生態系特殊性	生態系を検討する上での視点の一つで、地域の生態系の特殊な性質をいいます。具体的にはミズバショウ等の特徴的な植物が群生する湿原や、伏流水等によって成立しているバイカモやトミヨ等のみられる流出量の多い湧水池など、特異な地形や地質、植生により成立し、自然または人為により長期間維持されてきた環境及びそこに生息・生育する生物群集に注目します。
粉じん	空気又はガスなどに含まれている固体の粒子で、物の粉碎、選別その他の機械的処理又は堆積に伴い発生し、又は飛散する物質をいいます。
瀬淵構造	瀬は水深が浅くて流れの速い箇所、淵は水深が深く川の流れが穏やかな箇所のことで、この瀬と淵の組み合わせが瀬淵構造です。瀬と淵を持つ河道の流れは流水に多様性があり、生物相も多様なものになり、生物の存在に広範囲な弾力性を持たせます。

フォトモニタージュ

主要な眺望地点から撮影した写真に、対象事業の完成予想図を合成して、景観の変化を予測する方法です。眺めの変化を視覚的表現によって予測するもので、広く一般的に用いられている方法です。

河床

河川の流水に接する川底の部分を河床と呼びます。

河床材料、河床構成材料

川底の部分である河床を構成する砂や石などのことです。川の上流では、大きくごつごつした石があり、中流では小さい玉石、下流では砂やシルト・粘土などの細かい土砂が堆積しています。

河道

流水を安全に流下させるための水の流れる部分です。通常水が流れている低水路と、洪水の時だけ流れる高水敷に分けられます。

4. 第5章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

騒音レベル

騒音計のマイクロフォンで測定した音圧に、耳の特性に合わせた聴覚補正を行ったもので、単位にはデシベル(dB)が用いられます。

一般的な騒音の目安	
80dB	地下鉄の車内 ピアノ
70dB	掃除機 騒々しい街頭
60dB	普通の会話 チャイム
50dB	静かな事務所 エアコン室外機

振動レベル

振動レベルとは、振動の加速度レベルに振動感覚補正を行ったもので、単位にはデシベル(dB)が用いられます。

一般的な振動の目安	
65~75dB	大勢の人に感じる程度のもので、戸障子がわずかに動くのがわかる程度
55~65dB	静止している人や、特に地震に注意深い人だけに感じる程度
55dB 以下	人体に感じないで地震計に記録される程度

粒度分布	粒子群を構成する粒子の粒径に対応する質量分布のことで粒度組成ともいいます。砕屑物の粒子の大きさは、礫・砂・シルト・粘土に四分されてさらに細分化されますが、天然の砕屑物はそれぞれ岩片・鉱物粒・粘土鉱物など、一定の範囲の粒子の複雑な集合体でできています。粒度分布の表し方には、①土の粒度分布をふるい通過の質量百分率で示したもの、②沈降速度の計測によってストークス式からの粒径を算出したもの、③顕微鏡法によって球相当径で表したもの、④光散乱法による計測での球相当で表したもの、⑤電気抵抗試験方法による抵抗値から換算したものがああります。
動物相	ある地域に生息する動物の全種類のことをいいます。
植物相	一定の範囲に生育する植物の全種類のことをいいます。
風向・風速	風向は風の吹いてくる方向を言い、風速は 10 分間平均風速を指します。
降下ばいじん	大気中の粒子のうち、自重又は雨で地上に落下するものをいい、不溶解性物質と溶解性物質に分かれます。
振動レベルの 80 パーセントレンジの上端値 (L10)	振動レベルがあるレベル以上になる時間が実測時間の 10% を占める場合、80 パーセントレンジの上端値 (L10) といいます。
鉛直二次元モデル	夏季に水温成層（水深にとまなう水温の変化が特に大きな層）が発達する貯水池では、しばしば水温、懸濁物質に起因する水深方向の密度分布の変化が顕著となり、密度流（密度の差により生じる流れ）が形成されて運動量、熱および各種物質濃度の水深方向への輸送、混合が制限されます。一方、わが国の貯水池の多くは、流下方向スケールに比較して横断方向のスケールが小さい幾何学形状をもつものとして特徴づけられます。このため、運動量、熱および各種物質濃度は、幅方向にはほぼ一様とみなされうるが、流れ方向と水深方向では場所的な変化を取り入れなければならないのが普通です。鉛直二次元モデル（一次元多層流モデルともいう）は、横断方向の運動量、熱および物質濃度を一様と仮定し、貯水池を流下方向および水深方向に分割するモデル化の手法です。日射による輻射熱、水面での熱伝達で表される熱収支および物質の流入出、貯水池内での変化および物質収の沈降で表される物質収支を考慮して水収支、熱収支及び物質収支を時間的に順次計算し、貯水池の水温、物質濃度分布および放流水温、物質濃度を定量的に求めます。

一次元非平衡河床変動モデル

一次元河床変動計算は河道横断形状を矩形に近似して河床の上昇、低下を予測する計算手法をいいます。非平衡モデルは、流れの流砂の体積濃度が平衡濃度より大きい（流砂量が平衡流砂量より大きい）場合に生じる堆積状態や、流れの体積濃度が平衡濃度より小さい（流砂量が平衡流砂量より小さい）場合に生じる侵食状態を計算します。

排水基準

水質汚濁防止法によって、工場および事業所から水を公共用水域に排出する場合および地下に浸透させる場合には、排出水が排水基準に適合するように排水処理体制を整備することが義務づけられています。排水基準には、全ての公共用水域を対象として国が総理府令で定めて一律に適用される一律基準の他に、都道府県が適用する水域を指定して条例で定める上乘せ基準、水質汚濁防止法で規制対象となっていない物質や業種についても条例で定める横出し基準があります。

輻射

電磁波を放出することで、放射ともいいます。放射源は、自然界に存在するものとしては、太陽放射が地表や大気中の気体分子で錯乱反射して得られる放射、および地表物体や大気構成成分からの熱放射があります。

行動圏

行動圏とはつがいが通常の生活を行うために飛行する範囲で、非利用部分も多く含まれています。年間を通じて一定であるわけではなく、通常、営巣期の行動圏は、巣に獲物を運ぶ必要があるために狭くなる傾向にあります。

行動圏の内部構造

行動圏とは、つがいが通常の生活を行うために飛行する範囲のことを指しますが、分析する形態や目的によって異なる観点から区分する必要があります。利用形態からは、営巣場所、巣立ち雛の養育地及び採食地に分けられ、社会的な形態としては、明確ななわばりを持つ種については繁殖テリトリーが挙げられます。

階層構造

森林において、高木が上層で林冠を作り、その下の層にはより低い木が、さらに下の層には草が生える等、植生が階層状になっている構造のことです。

冠水

出水や氾濫により普段は水のない土地が水に浸かることをいいます。

河川形態

河川のある区間を特徴づけるために、川底の様子、流れの速さ、蛇行の仕方に着目して型に分けたものです。

河川横断工作物

ダムや堰などの、治水や利水を目的として、川の流れをせき止める構造物のことをいいます。

食物連鎖	生物の捕食・被食(食う・食われる)によるつながりを指します。
微気象	一般に、地表面から2メートルくらいまで、あるいは100メートルくらいまでの大気現象のことをいいますが、ここでは洞窟内の温度・湿度のことをいいます。
沈降試験	懸濁液中の粒子の沈降特性を把握し、沈降曲線等を求める際に行う実験を沈降試験といいます。とくに規定はありませんが、通常は高さ1~2m程度の沈降筒を用いて、濁水、崩壊土、ダム貯水池底泥を対象とした沈降試験を行う場合が多いです。
出水	雨などにより河川が増水した状態をいいます。融雪の時期、集中豪雨(梅雨)や台風の多い時期など河川が増水しやすい期間を出水期といい、出水期以外の期間を非出水期といいます。
窒素化合物	自然界における各種の窒素を含む化合物を窒素化合物と呼んでいます。水中の窒素化合物の総量は全窒素(T-N)として測定され、環境基準の評価はT-Nによって行われています。
リン化合物	自然界におけるリンを主成分とした化合物の総称です。その化合物の一つであるリン酸肥料は、植物の成長に欠かすことのできない栄養素です。リンは自然界で岩石や土壌を起源とし、雨水に流されて河川中へ含まれ、海へ流出します。自然界の水域では、リン成分は極めて少なく濃度も低いが、植物プランクトンの生産には重要な要素であり、その生産量を支配する因子として知られています。湖沼や貯水池においても上流域からのリン化合物の流入は水中の植物プランクトンの増殖において重要なパラメーターであり、滞留時間の増加とあいまって、その生産量、増殖量を左右する原因物質とされています。
化学的酸素要求量(COD)	化学的酸素要求量(Chemical Oxygen Demand)を略称でCODといいます。海水や河川水の有機汚染物質等による汚れの度合いを示す数値で、水中の有機物質等汚染源となる物質を通常、過マンガン酸カリウム等の酸化剤で酸化するときに消費される酸素量をmg/Lで表したものです。数値が高いほど水中の汚染物質の量も多いということを示します。
クロロフィルa	クロロフィルaは葉緑素ともいい、植物や藻類に含まれる光合成に必要な緑色色素です。クロロフィルaは光合成細菌を除く、すべての緑色植物に含まれるもので、藻類の存在の指標として使用できます。

目撃法	調査地区を踏査しながら目撃により確認する調査方法です。両生類は、カエル類など鳴き声によって種の同定が可能な種があるので、鳴き声による確認も目撃法に含みます。昆虫では、トンボ類、チョウ類、ハチ類、セミ類、バッタ類などの大型で目立つ種を、採集することなく、目撃あるいは鳴き声によって種を識別します。
フィールドサイン法	哺乳類を対象とした調査方法の一つで、生息・出没の予想される箇所を踏査し、足跡、糞、食痕、巣、爪痕、抜け毛、掘り返し等のフィールドサインを観察して記録する方法です。
トラップ法	主にネズミ類、モグラ類等を対象とした、罠により捕獲する調査方法です。
無人撮影法	哺乳類を対象とした調査方法です。哺乳類は、夜行性の種が多く、目視確認が難しいことが多いため、赤外線に反応するセンサースイッチ等による無人撮影装置を用いて、生息する種を確認します。
超音波録音調査	コウモリ類の発する超音波を可聴音に変換する装置を設置して一定期間録音し、音声解析を行い生息する種を確認する方法です。
巣箱調査	樹上性齧歯類（ムササビ・ヤマネ・モモンガ・リス類等）は、捕獲が困難で、かつ、夜行性であるため日中の観察が難しいが、樹洞をねぐらとして用いる種が多いため、ねぐらとして利用できる巣箱を設置し、巣箱を定期的に見回り、巣箱を利用している個体や痕跡を確認します。
糞 DNA 調査	カモシカの可能性がある糞、イタチ属（イタチまたはチョウセンイタチ）の糞を確認した場合は採取し、DNA 分析により種を同定する方法です。
環境 DNA 調査	土、水、空気など、生物が存在する環境から採取することのできる生物由来の DNA を分析する調査手法のことをいいます。DNA は生物の本体だけでなく、そこから放出された断片にも含まれており、例えば動物の場合、排泄物や魚の鱗、鳥の羽、哺乳類の毛や皮膚などがそれに該当します。DNA における塩基の並び順（塩基配列）は生物によって異なるため、ある場所の土や水などに含まれる「環境 DNA」の塩基配列を解読することで、その場所にどの生物がいたのか、また同 DNA の濃度から生息数などを推定することができます。

定点観察	ある地点で、一定時間に出現した鳥類を記録する調査方法です。
踏査	実際にその地へ出かけて調べることをいいます。
ラインセンサス法	鳥類調査で用いる調査方法の一つです。調査定線上を歩いて、その線から一定の幅内に出現する鳥類の種類と個体数、行動等を記録します。
任意観察	調査範囲のさまざまな環境を踏査し、鳥類の生息種の確認を行う調査方法です。
全長	頭の前（または口の前）から尾の先の長さをいいます。
頭胴長	頭の前（または口の前）からお尻までの長さをいいます。
任意採集法	<p>昆虫類やクモ類、陸産貝類等を対象とした調査方法で、その採集・確認方法により、見つけ採り、スウィーピング法、ビーティング法に区分することができます。また、目撃による記録も行います。陸産貝類では石おこし採集法及びシフティングも行います。</p> <p>見つけ採りは、踏査中に見つけた昆虫やクモ類、陸産貝類を、捕虫ネットや手で採集する方法です。</p> <p>スウィーピング法は、主に低木、草地等で用いられる方法で、捕虫ネットを水平に振り、草や木の枝をなぎ払うようにしてすくいとることで、木や草、花の上に静止している昆虫やクモ類を捕まえる方法です。</p> <p>ビーティング法は、木の枝、草等を叩き棒で叩いて、下に落ちた昆虫やクモ類をネットで受け取って採集する方法です。</p> <p>目撃は、トンボ類、チョウ類、ハチ類、セミ類、バッタ類等の大型で目立つ昆虫等について目視により種の識別ができる種を確認する方法です。</p>
ライトトラップ法	<p>夜間に灯火に集まる昆虫類を採集する調査方法で、カーテン法とボックス法があります。</p> <p>カーテン法は、白色のスクリーン(カーテン)を見通しのよい場所に張り、その前に光源を吊して点灯し、スクリーンに集まった昆虫を採集します。</p> <p>ボックス法は、光源の下に大型ロート部及び昆虫類収集ボックス部からなる捕虫器を設置し、光源に集まった昆虫が大型ロート部に落ち、捕虫器に収納されたものを採集します。</p>
ベイトトラップ法	地上を歩きまわる昆虫やクモ類を対象とした調査方法です。地面と同じ高さに口がくるように餌を入れたコップを埋め、一晩おいて中に捕らえられた昆虫やクモ類を採集する方法です。

パントラップ法	平たい容器に水を張り徘徊性の陸上昆虫類やハエ等を採集する調査方法です。
FIT トラップ法	フライト・インターセプション・トラップ法という、飛翔中の昆虫を何物かで遮って捕らえる調査方法です。
腐果トラップ法	昆虫の餌あるいは餌と同じ匂いがするものをトラップの中に入れて、昆虫をおびきよせ採集する方法の一種で、発酵させたバナナ等の果物を用いる調査方法です。
水中ライトトラップ法	夜間に活動する昆虫を採集するため、光源を設置し、光を慕って来集する昆虫を採集する方法のうち、水生昆虫を採集するため水中に設置する調査方法です。
定性採集	多くの環境に生息する底生動物を網羅的に把握することを目的とし、川底が石や砂の場所、流速が速い場所や遅い場所、水深の深い所や浅い所、水生植物の群落内等様々な環境において、タモ網、サデ網等、必要に応じて様々な採集用具を用いて行う調査方法です。
ピットフォールトラップ法	地上を歩きまわる陸上昆虫類等を採集する調査方法です。地面と同じ高さに口がくるように、プラスチックコップ等を埋め、一晚程度放置した後に落下した陸上昆虫類等を回収します。
林縁環境	森林の、草地や裸地に接する部分のことです。微気候条件の変化があり、林内と異なる多様な動植物がみられます。
林床	森林の地表面のことです。光が林冠により遮られるため、耐陰性の強い植物や菌類などが生育します。
生活史	生物個体が出生してから死亡するまでにたどる過程のことで、いつどのような発育段階を経るか、出生から繁殖開始までの時間や繁殖開始から終了までの時間、1 年間にどのような世代を繰り返すかなども含まれます。1 個体というよりもむしろ、個体群などの平均的性質を指すのが普通です。
植生図	植物群落の分布を地図上に示したものをいいます。
不等流計算	洪水が流れたときの、川の水位や流速を計算する手法のことで、不等流計算は、河道の形状に変化のある川で用いられる計算方法です。
羽化	成虫となる際に脱皮することをいいます。

低山帯	植生の垂直分布帯の一つです。丘陵帯と亜高山帯の間に位置し、クリ、ミズナラ、ブナなどの落葉広葉樹によって代表されます。本州中部では海拔 500～1,500 メートルに見られます。
亜高山帯	生物の垂直分布の一つで、高山帯と山地帯の間に位置し、特に植物において顕著な区分がみられます。日本の本州中部では高度 1500～2500 メートルで、通常コメツガ、トウヒ、シラビソなど針葉樹林を主とする森林が発達しています。
針葉樹林	針葉樹が優占種となっている森林のことです。主に北半球に分布しています。トウヒ・シラビソ・トドマツなどが多くみられます。
原生林	昔から現在まで、一度も人手が加えられたことのない、自然のままの森林のことです。原始林ともいいます。
狩り場環境	必要な餌量を確保するために必要な範囲で、繁殖活動中と繁殖活動中以外の時期で利用地域に違いが見られることがあります。繁殖活動中は巣に近い地域が利用されますが、繁殖活動中以外にはより広範囲を利用するとされています。
潜在的営巣環境	現在利用されている営巣地だけではなく、営巣地としての環境条件を備えている地域をいいます。
縦断方向	縦断方向とは上流-下流の方向（水域-陸域方向は横断方向）を表します。
営巣地	鳥が巣作りをする場所や区域をいいます。営巣に利用される樹木を営巣木、物体を営巣物といいます。
樹洞	木のなか腐るなどして、隙間ができた洞窟状の空間をいいます。ムササビやコウモリ、フクロウ、昆虫など、さまざまな動物がねぐらや繁殖場所等として利用しています。
早瀬	河川の水深が浅い場所のうち、水面は白く波立ち、流速は大きなところ。平瀬と比べるとより流速が大きく、水深がより浅いところ。
平瀬	河川の水深が浅い場所のうち、水面は波立ちますが白波は立たないところ。早瀬と比べると流速は小さく、水深はやや深いところ。
緩流部	水の流れが緩やかなところ。

バットディテクター

コウモリが発する超音波を電子的に可聴音に変換する機器をいいます。

岩隙地

岩隙に堆積したわずかな土壌と上方から流下する雨水に含まれる養分等により生育する生育地をいいます。